

③複数の専門家の連携で進めた事業承継支援事例

下関商工会議所

松琴堂 名菓 あわゆき 本舗



事例概要

老舗の和菓子屋である有限会社松琴堂は慶応年間から続く老舗である。製法が一子相伝であり、初代内閣総理大臣伊藤博文公が愛した和菓子「あわゆき」は、皇室に献上される銘菓として地元では有名である。

現経営者であるA氏(76歳)は娘夫婦に家業を継いで欲しいと考え、長女B氏の夫を婿として迎え入れ養子縁組を行っていたが、経営者夫妻が病弱であることから長女B氏は早期の事業承継を望み、自ら7代目になることを決意した。長女夫妻の老舗を維持し一子相伝の技術でお客様に喜ばれる和菓子を作り続けたいとの願いに応えるために、事業承継支援センター(支援センター)にて複数の専門家(弁護士・税理士・中小企業診断士)が連携して事業承継支援に取り組んだ事例である。

支援の経緯

長女B氏は、現経営者A氏が高齢であることから事業承継について具体的に検討する必要を感じていたが、相談する相手がおらず困っていた。そこで、経営革新セミナーなどの支援を受けていた下関商工会議所に相談したところ、同商工会議所が事業承継相談会を開催することを知り、それを契機として支援が開始した。

【支援の経過】

- 事業承継相談会に長女B氏が参加。その後、もう一度、母親と長女B氏で相談会に参加。
- 専門家派遣において、相続紛争予防、株式評価、財務分析について、それぞれ、弁護士、税理士、診断士がアドバイス。
- 株式評価をもとに、弁護士による現経営者夫妻と長女B氏との株式売買契約の作成について指導。
- 応援コーディネーター(Co)が、円滑な承継に向け、現経営者夫妻と長女夫妻との家族内会議の開催を働きかける。家族会議において、株式売買契約を締結。今後の支援等について相談を継続中。

支援のポイント

- 後継者以外の家族、特に娘婿の心情にも考慮し、家族の意向を確認するために家族会議を開催するよう応援Coがアドバイス。
- 資産内容を把握し株式評価額に関するアドバイスをを行い、長女B氏への株式の譲渡を実施した(株式の集中)。
- 3名の専門家が相談の段階に参加し、課題解決に向け支援を行った。

支援の成果・今後の見通し

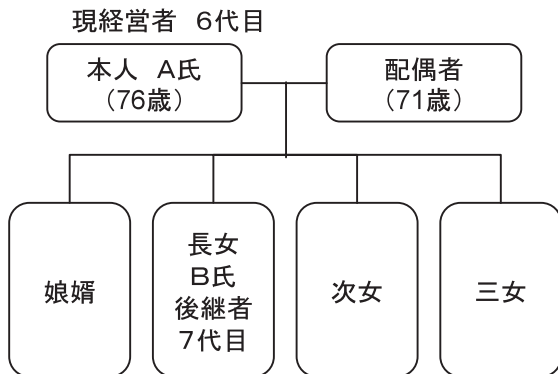
娘婿は製造担当、長女は販売・経理担当であったことを踏まえ、家族が長女B氏を後継者とすることに合意し、株式を長女B氏に集中することで円滑な事業承継が実現できた。また、老舗としての伝統を守り、顧客の期待にも継続して応えることができようになった。

今後は、現経営者A氏の個人資産に関し、相続を視野に入れた公正証書遺言を作成する予定である。また、大学や地域と連携し新規開発を進め、伝統を維持しつつ時代のニーズにも応える事業展開をめざす予定。

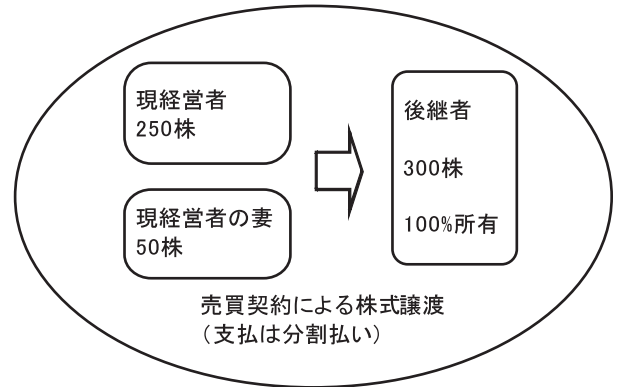
さらに、一子相伝の技術を引き継ぐ次の後継者(8代目)候補についても育成していく予定。

家族関係図・当事者関係図

(家族関係図)



(当事者関係図)



参考となる支援のポイント

○応援Coを中心とした専門家間での密接な連携: 専門家(弁護士、税理士、中小企業診断士)を交えた事業承継相談会を開催。3名の専門家による相談会実施及び応援Coによる専門家間の調整により、相続紛争予防(弁護士)や株式評価(税理士)、財務分析(診断士)等の多面的なアドバイスを受けるとともに、迅速な現状把握、情報の共有化が可能となった。

- 役員報酬を考慮した株式代金の分割払いなど、中小企業診断士による財務(資金繰り)に関するアドバイス
- 財務分析の結果を参考にした、税理士による株式評価に関するアドバイス
- 弁護士による相続紛争防止策や株式評価をもとにした株式売買契約書の作成についてのアドバイス

○家族会議の開催: 応援Coが、家族の心情に配慮して家族会議の開催を働きかけた。それにより開催された家族会議において、事業承継の内容について家族の理解、合意を得た。

○関係者との信頼関係の構築: 応援Coが、面談・店舗訪問や電話連絡等を通じ、後継者及び関係者との信頼関係の構築に努めた。

○総合的な支援: ITの専門家派遣・経営革新塾等などの事業承継支援以外の支援と連携しながら、地域の絆をを活かした総合的・継続的な支援を推進。

事業承継計画の概要

事業計画	現在	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
売上高								
経常利益								
株式・出資	株式の譲渡	新しいお菓子の開発			老舗の維持・発展			
現経営者年齢		公正証書遺言の作成						
役職		8代目候補の育成						
後継者年齢								
役職								
後継者教育								